

12月

新着図書

最後の一色（上）

著者名： 和田 竜
出版社： 小学館

「信長か。珍しゅうもない。ざらにいる男よー。」
織田信長による天下布武の軍団が日本全土を侵略していくなか、その怪物は戦場にあらわれた。名を丹後の守護大名、一色義員（いっしき・よしかず）の嫡男・五郎（ごろう）と言った。
17歳の青年は、父が倒された圧倒的不利な状況下で、凄惨な戦闘を繰り広げ、その場にいた全ての人間を恐怖に陥れる。

最後の一色（下）

著者名： 和田 竜
出版社： 小学館

織田信長に丹後を支配するように命じられた智将・長岡（細川）藤孝、猛将・忠興親子は、決死の覚悟で一色五郎と戦う。
味方にも秘策を明かさぬ一色五郎が進もうとする先は、果たして織田家の壊滅か、一族の破滅か。
戦国時代最後の怪物が覚醒する。

シークレット・オブ・シークレッツ 上

著者名： ダン・ブラウン（著）、越前 敏弥（翻訳）
出版社： KADOKAWA

『ダ・ヴィンチ・コード』著者8年ぶり最新刊。ラングドンが帰ってきた！

象徴学を専門とする著名な大学教授ロバート・ラングドンは、プラハを訪れていた。最近恋仲になった気鋭の純粋知性科学者キャサリン・ソロモンの講演を聴くためだ。講演でキャサリンは、人間の意識にまつわる驚くべき発見について解説した著書を発表予定だと話した。しかしそれは、何世紀にもわたって人々が信じてきた通念を脅かしかねないほど斬新な内容だった——。
残忍な殺人事件が起こってラングドンは大混乱に巻き込まれ、キャサリンは原稿とともに突然姿を消す。物語がロンドン、ニューヨークへとひろがるなか、ラングドンは懸命にキャサリンをさがしながら謎を解明していく。そして、未来の科学や謎めいた伝承と苦闘したすえに、ある秘密のプロジェクトに関する衝撃の真実を知る。それは、人間の心についての常識を根底から覆すものだった。

シークレット・オブ・シークレッツ 下

著者名： ダン・ブラウン（著）、越前 敏弥（翻訳）
出版社： KADOKAWA

とどけチャイコフスキー

著者名： 中山 七里
出版社： 宝島社

185万部突破の岬洋介シリーズ最新刊！ ショパン・コンクールで入賞し、現在はモスクワ音楽院で教鞭を執るヴァレリー。ロシアは国際情勢の影響で文化的鎖国ともいえる状況にあり、学生に様々な音楽に触れさせたいヴァレリーはもどかしい。そんな折、岬がロシアにいることを知り、学内で演奏してもらう約束をするが学部長は猛反対。その晩、学部長は密室状態の宿舎で殺害され……。

戦国史のミカタ

著者名： 本郷 和人
出版社： 祥伝社

見方を変えることで、見えてくるもの
日本史における激動の時代であり、人物が躍動した戦国期を、「合戦」「天下人」「家康の家臣操縦術」「戦国女性」の4テーマに分け、著者独自のミカタ（見方）で読み解いていく。
たとえば——織田信長は、命をかけて死に立ち向かった者だけを認めた。
どんなに有能でも、戦場で成果を残せなかった者、戦死してしまった者は「こっち側」に来られなかった者として認めなかった。
ここに、信長の死生観と家臣評価の特徴がある。
いっぽう、豊臣秀吉の家臣評価は文官優位。
武将といえどもデスクワークができない者は評価しなかった——。
見方を変えると、新たなおもしろさが発見できる！

真田武士心得〈一〉 右近純情

著者名： 井原 忠政
出版社： 文藝春秋

真田昌幸の家臣だった鈴木主水は、名胡桃城事件の責任を取って立ったまま切腹して果てた。その正妻・志野も夫の後を追って殉死。遺児である鈴木小太郎には、真田家家臣団から厳しい目が向けられていた。

真田信幸に仕えることとなった主人公・鈴木小太郎（のちの鈴木右近）は、父母の無念を晴らすべく、怨敵・中山九兵衛を追う。恩義ある真田信幸夫妻への忠誠と両親の仇討ち、二つの本懐を全うしようとした右近が貫いた「純情」とは——。

真田武士心得〈二〉 関ヶ原純情

著者名： 井原 忠政
出版社： 文藝春秋

天下分け目の戦いを前に、真田信幸から鈴木右近に密命が下った。右近の剣の師・柳生宗章の元に、柳生宗矩からの密書を届けよ、と。信濃から岐阜へ、わずか七日の長駆。数々の峻険を越え、地侍の襲撃を退け、主君への忠義と両親の仇討ち二つの想いを胸に、若武者は家来とただひたすらに駆ける。困難を極める任務の結末はいかに？